

自己評価結果公表シート

認定こども園 百華幼稚園(令和6年度)

1. 本園の教育目標

幼児期は生活のなかで、自分の興味や欲求に基づいた直接的具体的な体験を通して、人間形成の基礎となる豊かな心情や物事に自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期であることから、適切な環境のもとでこの時期に育つことが望まれる心情、意欲、態度などを育てることをねらいとしている。

目指す幼児像として以下を掲げる 明るく のびのびと たくましく思いやりのある子＝仏の子を育てる。

- 忍耐力のある子 ■ 協力する心のある子 ■ 礼儀正しい子 ■ 自主、自立のある子 ■ 感謝する心のある子
- 創造力のある子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて、教育・保育の課程を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、認定こども園が今後担う役割について検討し実践する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	認定こども園教育・保育要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように勤めている。
園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	認定こども園教育・保育要領を踏まえて、認定こども園に求められる多様な役割を担うことができるように、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討を始めている。
教育の質の向上のために、研修を充実させる。	幼児の発達の姿を捉えるための研修を随時実施するとともに、日々の子どもの姿について話し合う機会を日々の職員会議及び毎月の全体会議でもつようにし、自由闊達に意見が開示できる環境をつくっている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	保護者との懇話を深めニーズの把握に努め、改善すべきことの把握に努めている。
小学校に近接した環境を活用し、小学校に親しみを持つよう努めている。 教育環境の充実に努めている。	平成22年8月に近隣へ小学校が移転してきた。小学校へ親しみを持つ体験を行う。 教育環境の向上のため、園舎・園庭の整備を継続して行い環境の充実に図っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者への対応、園内外の安全の確保に対する対応を十分に行うため、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの周知を引き続き行いたい。園内外の環境点検を常に行う。
特別支援教育	学級担任教諭と加配教諭及び全教職員の連携により特別支援教育を必要とする幼児に対応した個別の指導計画を充実させたい。関係機関の助言を得、教育方法及び教員の資質向上に努める。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する認定こども園像を把握し、現代社会において求められる認定こども園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。
社会環境の変化に対応する基礎力を培う教育環境の充実	基本的生活習慣の確認、自然環境との関わりから安定した心情と興味関心を養い、思いやりの心情等幼児期に育つことが望ましい基礎的な力を獲得する活動を充実し、社会環境の変化に対応できる力を培う。
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	認定こども園教・保育育要領の理解を全教職員で推進し、それを現実の保育に添わせるように引き続き勤める。幼児の主体的活動の理解を深め、主体性、創造性を培う教育・保育を展開するよう内容の理解を深める。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。